



2018年3月期 第1四半期決算説明資料

株式会社ダブルスタンダード（証券コード：3925）

代表取締役 清水 康裕

2017年8月14日

1. 2018年3月期 – 第1四半期 決算概要 . . . P.3

- (1) 決算ハイライト . . . P.4
- (2) 連結損益計算書 . . . P.5
- (3) 連結売上高 . . . P.6
- (4) 連結営業利益 | 経常利益 . . . P.7
- (5) 連結原価 | 販管費 . . . P.8
- (6) 連結貸借対照表 . . . P.9

2. 2018年3月期 業績予想 修正 . . . P.10

- (1) 基本方針 . . . P.11
- (2) 連結業績予想 – 売上高・営業利益 . . . P.12
- (3) サマリー . . . P.13
- (4) 事業別業績予想 . . . P.14
- (5) 配当政策 . . . P.15

3. 事業説明 . . . P.16

- (1) 基盤技術の概要 . . . P.17
- (2) 事業説明 (事例 | 含: 開発中) . . . P.18

本資料の予測数値は、本資料の発表日までに入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる場合があります。


2018年3月期 – 第1四半期 決算概要


決算ハイライト

1

対前年同期比、増収増益！！

創業来最高の売上高・営業利益を継続達成に向けて順調に進捗中。

売上高 **473,338**千円 (前期比 +162,689千円、+52.4%) 

営業利益 **143,672**千円 (前期比 + 10,670千円、+ 8.0%) 

2

1Qは、概ね計画通りに進捗中。

本社移転、外注を含めた要員大幅増加を先行投資としつつ、売上増で吸収。

3

通期業績予想および期末配当予想を修正！！

業績予想 売上高 **1,806,000**千円 (対期初予想 +164,939千円、+10.1%)

営業利益 **500,000**千円～ (対期初予想 + 9,755千円、+ 2.0%)

配当予想 前回公表時未定であった期末配当金予想を**38円**に修正

連結損益計算書

案件数拡大による売上高増

非ストック型案件の売上発生、安定収益基盤であるストック型案件の順調な受注が寄与。

要員増員及び本社移転による販管費の増加

要員増加による人件費の増加および本社移転による地代家賃等の増加により販管費が増加しているが、順調な売上増加によって販管費の増加を吸収。

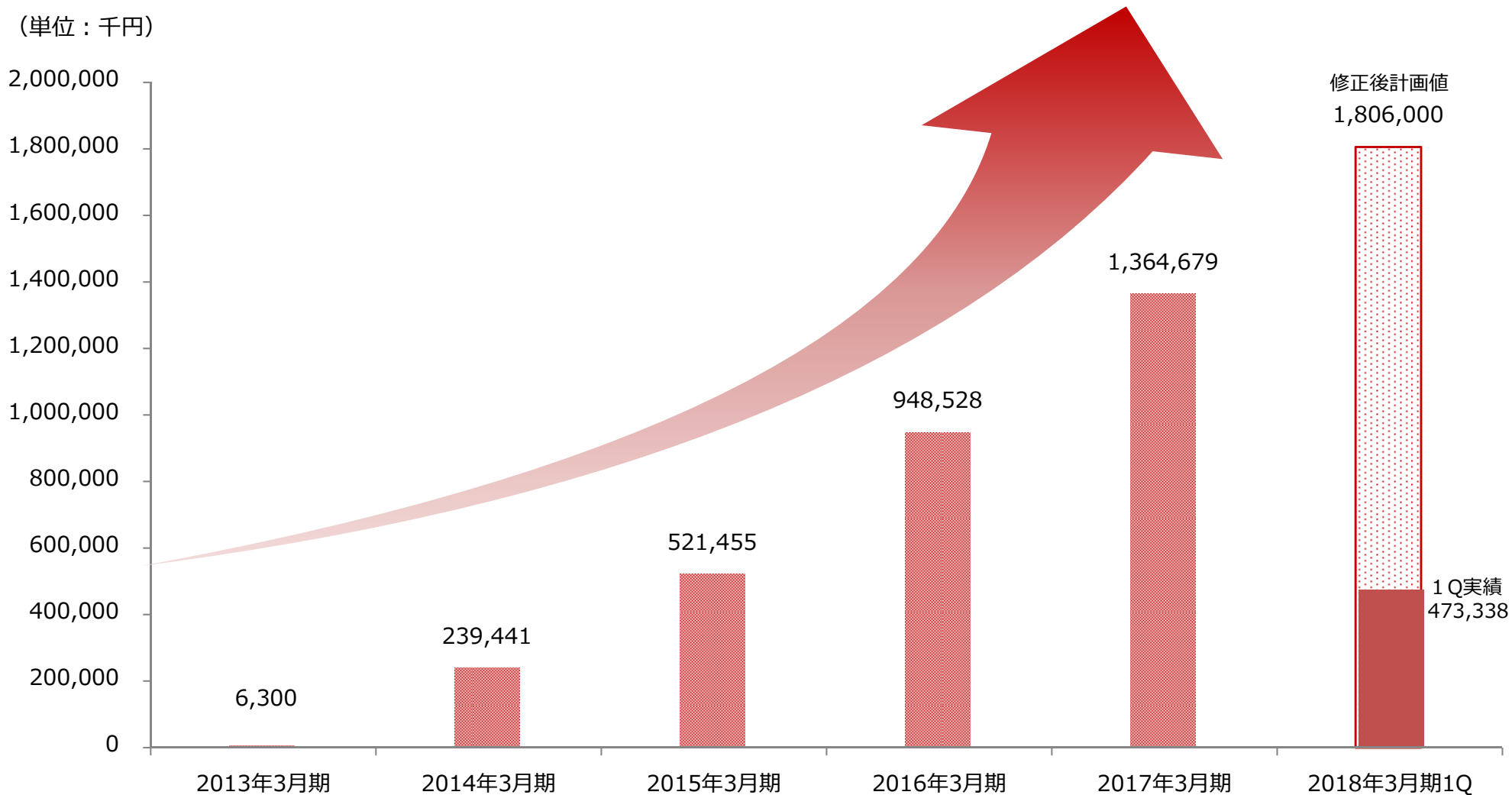
(単位：千円)

	2018年3月期 第1四半期	2017年3月期 第1四半期	前年同期比		2018年3月期	計画数値
	実績	実績	金額	増減率	年度計画	進捗率
売上高	473,338	310,649	+162,689	+52.4%	1,806,000	26.2%
売上原価	229,313	102,864	+126,449	+122.9%	829,000	27.7%
売上総利益	244,024	207,785	+36,239	+17.4%	977,000	25.0%
販管費	100,352	74,783	+25,569	+34.2%	477,000	21.0%
営業利益 (利益率)	143,672 30.4%	133,002 42.8%	+10,670	+8.0%	500,000～ 27.7%～	28.7%
経常利益 (利益率)	143,975 30.4%	134,252 43.2%	+9,723	+7.2%	504,000～ 27.9%～	28.6%
四半期純利益 (利益率)	96,246 20.3%	87,718 28.2%	+8,527	+9.7%	327,600～ 18.1%～	29.4%

※計画数値に対する進捗率の記載は、レンジの下限にて算出しております

■ 連結売上高

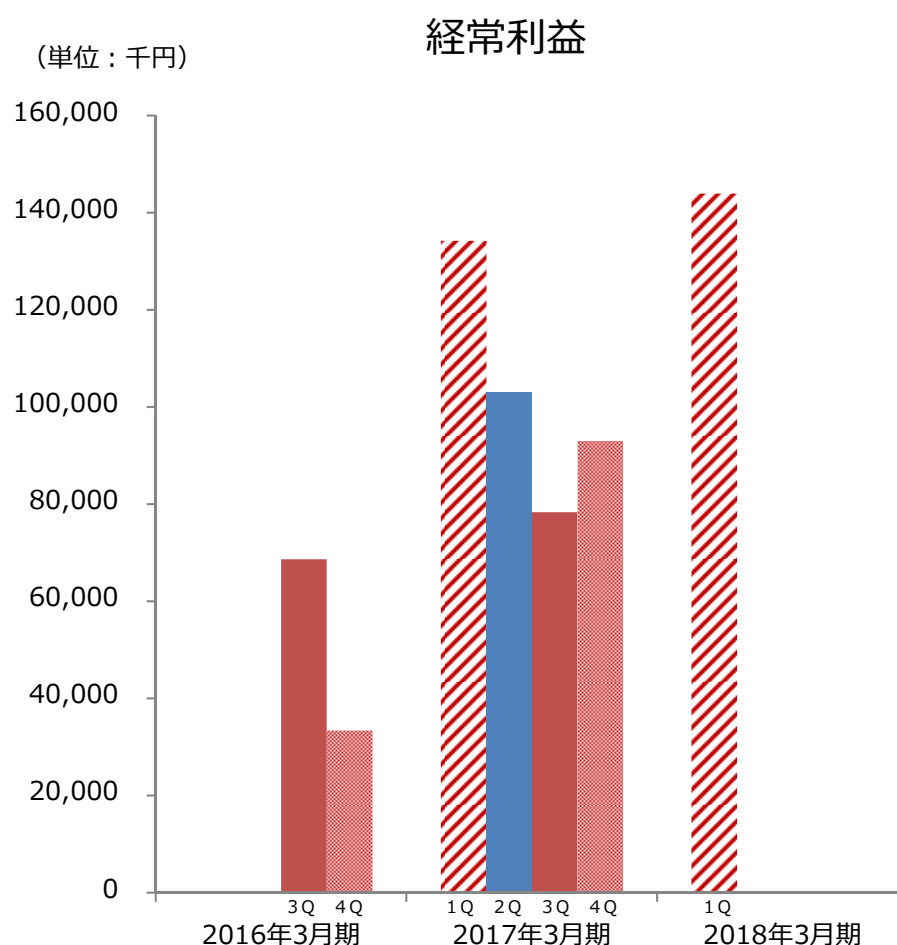
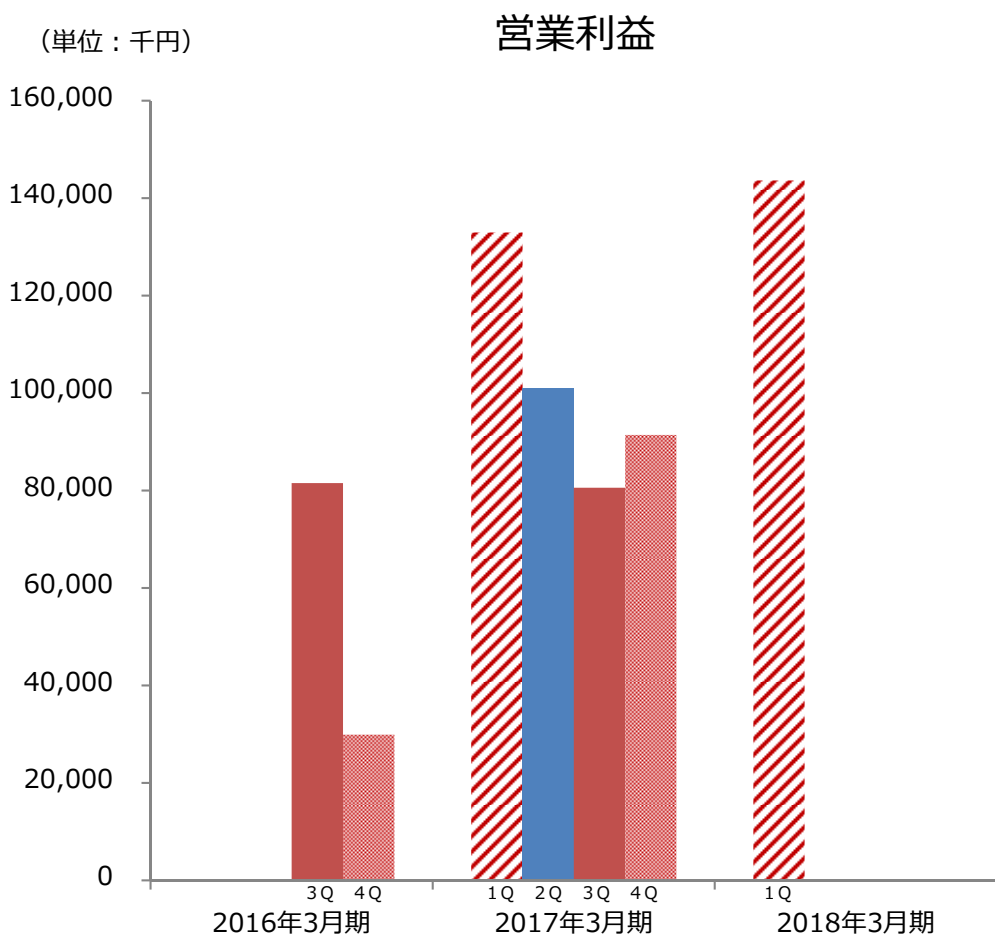
新規案件受注および既存案件追加受注が継続増加中！！安定的な成長を実現。



■ 連結営業利益 | 経常利益

増収により販管費の増加を吸収し、概ね計画通りの利益を確保。

短期的なコスト増を躊躇せず、システム品質・業務オペレーションにおける優位性および将来のコスト抑制の基盤作りに注力！



連結原価 | 販管費

売上原価

非ストック型案件原価の外注委託費の増加、ストック型案件受託増加による労務費の増加

(単位：千円)	2018年3月期 第1四半期	2017年3月期 第1四半期	前年同期比	
	実績	実績	金額	増減率
原価総額	229,313	102,864	+126,449	+122.9%
通信関係費	20,022	12,943	+7,079	+54.7%
外注委託費	178,122	72,578	+105,544	+145.4%
労務費	22,329	11,737	+10,592	+90.2%
減価償却費	8,839	5,604	+3,235	+57.7%

販管費

要員増加による人件費の増加、本社移転による地代家賃および減価償却費の増加

(単位：千円)	2018年3月期 第1四半期	2017年3月期 第1四半期	前年同期比	
	実績	実績	金額	増減率
販管費総額	100,352	74,783	+25,569	+34.2%
人件費	51,632	39,245	+12,386	+31.6%
地代家賃	10,509	4,199	+6,309	+150.2%
減価償却費	2,447	690	+1,757	+254.7%
その他	35,762	30,647	+5,115	+16.7%

 連結貸借対照表

配当金支払および仕掛品減少により流動資産が減少、未払金および未払法人税等の減少により流動負債が減少。自己資本比率80%超の盤石な財務基盤を維持。

(単位：千円)	2018年3月期 第1四半期	2017年3月期	前期末との比較	
	実績	実績	増減金額	増減比率
流動資産	986,372	1,312,213	△325,840	△24.8%
うち、現金及び預金	801,777	1,018,119	△216,342	△21.3%
固定資産	271,911	279,713	△7,802	△2.8%
総資産	1,258,283	1,591,926	△333,643	△21.0%
流動負債	215,336	536,901	△321,565	△59.9%
純資産	1,042,947	1,055,025	△12,077	△1.1%
自己資本比率 (%)	82.9%	66.3%	—	—

2018年3月期 業績予想 修正

基本方針

1

「新規見込客との折衝強化 | B2B向けサービス開発と改修」

既存顧客からの見込客ご紹介、IPO以降今も続くお問合せの増加で、対応要員の採用育成ならびに断続的な新規サービス開発に励行し、業容拡大を図ります。

2

「サービス提供価格の積極的抑制と業務効率化での収益率向上」

顧客との中長期にわたる関係維持を重視しており、サービスの提供単価を積極的に抑制し、顧客貢献を実現します。加えて、人的オペレーションの自動化範囲の拡大を鋭意実施し、サービス提供単価の抑制課題を案件増加で対処します。

3

「当社安定収益源であるストック型案件の継続率向上」

提供サービスを、顧客の事業ならびに業務の基盤となる領域で取り扱われる内容に仕上げ、且つ売上拡大もしくは費用削減に寄与しつつ、安定的な収益確保を実現できるものに集中させています。

■ 連結業績予想 – 売上高・営業利益

「事業の安定成長」

2018年3月期においても、事業の柱をビッグデータ関連事業、サービス企画開発事業に据え、技術および知見の応用転用を繰り返しながら、サービスを拡大し、安定成長を目指してまいります。

「要員の質量強化」「徹底した業務効率化」「積極的な価格抑制」

顧客ならびに見込客への提案機会に恵まれている現況、対応要員の質量強化、サービスの断続的な開発ならびに発信、積極的価格抑制に取り組み、特異性の高いサービスを徹底した業務効率化によって、低価格でご提供差し上げ、高いご満足をいただけるよう取り組んでおります。

「断続的な新規サービスの開発・提供」

昨年度、主に金融機関向けに開発した新規サービスが順調に横展開を開始しています。

サービス開発およびその提供を如何に加速させるか、当社技術基盤を応用・転用することでこれを実現してまいります。

サマリー 修正

売上高

順調な案件増加および複数の新サービスのリリースを見込む

予想売上高 **1,806,000**千円

前期比 **+32.3%**

営業利益

先を見据えた先行投資の実施し、将来の更なる利益率向上を見込む

予想営業利益 **500,000**千円～

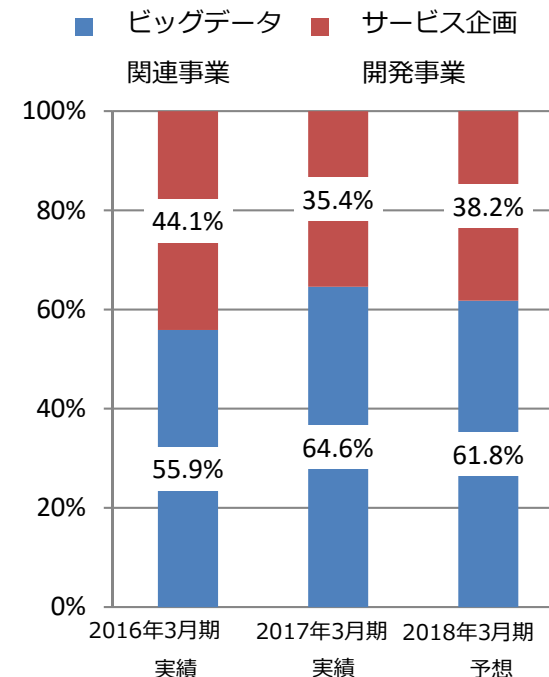
前期比 **+23.1%**～

(単位：千円)	2016年3月期	2017年3月期 実績	2018年3月期 予想		
	実績	実績	前回公表数値	今回修正数値	前回-今回
売上高	948,528	1,364,679	1,641,060	1,806,000	+164,939
売上原価	422,635	594,412	697,433	829,000	+131,566
売上総利益	525,892	770,267	943,626	977,000	+33,373
販管費	269,250	364,120	453,382	477,000	+23,617
営業利益 (利益率)	256,641 (27.1%)	406,146 (29.8%)	490,244 (29.9%)	500,000～ (27.7%～)	+9,755～
経常利益 (利益率)	248,786 (26.2%)	408,704 (29.9%)	494,304 (30.1%)	504,000～ (27.9%～)	+9,695～
当期純利益 (利益率)	159,135 (16.8%)	266,596 (19.5%)	322,697 (19.7%)	327,600～ (18.1%～)	+4,902～

※今回修正数値の営業利益、経常利益及び当期純利益につきましては、レンジの下限値にて記載しております。

事業別業績予想 修正

	2016年3月期 実績		2017年3月期 実績		2018年3月期 予想		
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高 前期比
合計	948,528	100.0%	1,364,679	100.0%	1,806,000	100.0%	+ 32.3%
ビッグデータ 関連事業	530,405	55.9%	882,107	64.6%	1,116,421	61.8%	+ 26.6%
サービス企画 開発事業	418,123	44.1%	482,572	35.4%	689,579	38.2%	+ 42.9%



ビッグデータ関連事業

見込客との折衝中案件が増加傾向にあり、顧客化を実現することで当社の安定収益源であるストック型売上の増加につながり、前年度同様に売上増加を見込んでおります。

サービス企画関連事業

金融機関向けサービスが開始し、並行して同時に進めてきたポータルサイト向けのサービスの受注が決定するなど順調に進捗中。現在企画中の新規サービスの複数存在し、顧客または見込客への積極展開を準備中。

■ 配当政策 配当予想を修正。未定⇒38円へ。

配当方針

当社グループは株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題であると認識しております。上場間もない当社ではありますが、継続的に株主の皆様に対する利益還元を実施する方針であります。配当金につきましては、内部留保による財務体質の強化を図りつつ、連結業績および財政状態を勘案しながら、利益配当を行っていく方針であります。

配当性向

2018年3月期の連結配当性向につきましては**25%を目安**とし、当初計画値達成に向けて順調に進捗していることを踏まえまして、前年度配当性向を勘案し、39%（特別配当を含む）を予定しております。

● 1株当たり配当金表

	1株当たり配当金（円）			配当性向（%）
	中間	期末	合計	
2016年3月期	—	26円※	26円	41.00%
2017年3月期	—	33円※	33円	39.00%
2018年3月期（予想）	—	38円	38円	38.47%

※2016年3月期は普通配当16円と上場記念配当10円、2017年3月期は普通配当21円と特別配当12円を合算して記載しております

事業説明

■ 基盤技術の概要

ビッグデータ関連事業

「技術の組み合わせ」で出来るサービス

●HTML情報活用型サービス

クロールで取得した情報に対し、当社クレンジング技術を活用して高精度のデータを生成。競合ポータルの分析や、営業用のアタックリストとして活用いただけるデータをご提供



●PDF情報活用型サービス

OCRで取得した情報に対し、当社クレンジング技術により、様々な形式に成形加工したdataを提供



●顧客DB活用型サービス

顧客の保有するDB情報を活用した、新たなコンテンツの開発・運用を支援



●帳票活用型サービス | チラシ活用型サービス

請求書などの帳票や、求人広告チラシなど紙にしかない重要情報をDB化。従来、宝の持ち腐れになっていたアナログ情報のデジタル化を支援します。



ビッグデータ処理に関する基盤技術

DOUBLE STANDARD

①情報収集

HTML、PDF、画像、請求書、帳票、音声、その他の情報収集



②情報抽出

収集情報のテキスト化・コラム化



③クレンジング

テキスト化・コラム化された情報のクレンジング



⑤レコード振分

クレンジングが完了したレコードの振分処理



④マッチング

揺らぎを含んだデータ同士のマッチング



サービス企画開発事業

「技術の組み合わせ」+「サービス企画開発力」で実現するサービス

●クローラ+情報抽出技術を活かした変更検知システム

調査対象とするサイトの情報掲載・更新を自動で定期的にチェック。最新情報の見逃し排除 + 作業効率化で顧客業務をサポートします。



●クローラ+情報抽出+情報加工+マッチング技術を活用した各種サービス

商品の最安値情報や不動産物件の賃料相場など、様々な情報をクロールで取得し、当社技術を活用して有益な情報を生成。



●情報抽出+情報加工+マッチング技術を活用した各種サービス

音声や位置情報など、非html情報をDB化。適切なデジタルレコードに変換し、顧客の販促支援・業務削減をサポートします



●その他企業向けサービス

当社技術を総合的に活用した、企業向けの様々なサービスを展開



ビッグデータ関連事業 | サービス企画開発事業 (事例 | 含: 開発中)

顧客に寄り添い、現場課題を解決するため、高度な技術と知見を活用して劇的なイノベーションを実現します！！

ビッグデータ活用領域

(ビッグデータ関連事業)

✓ マーケティング活動支援システム(WEB)



✓ マーケティング活動支援システム(紙)



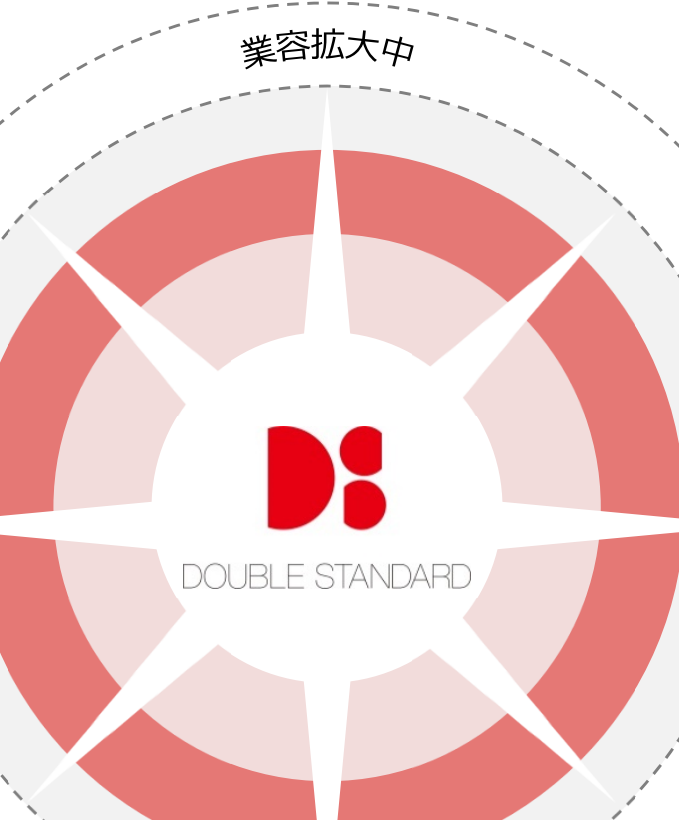
✓ 顧客データ強化・活用システム



RPA(Robotic Process Automation)領域

(ビッグデータ関連事業)

✓ バックオフィス業務自動化システム



AI 活用領域

(サービス企画開発事業)

✓ 変更箇所自動検知システム



✓ 音声テキスト化システム



✓ コンタクトセンター業務改善支援システム



✓ 位置情報活用型マーケティングシステム



FinTech領域

(サービス企画開発事業)

✓ WEB口座開設支援システム



本資料に記載されている経営戦略、計画や見通し等は、本資料作成日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る一定の前提条件に基づいており、当社としてその実現を保証するものではありません。

実際の業績は、業界の状況、経済の状況、金融市場の動向の他、様々な要因によって大きく変動する場合があります。予めご承知おき下さい。

本資料は、株式会社ダブルスタンダード及び当社関係会社の事業の概要へのご理解をいただくために作成されたものであり、投資の勧誘または斡旋を行うものではありません。投資に関するご判断は投資家様ご自身の責任で行われますようお願い申し上げます。

